

# 三河の昆虫

MIKAWA NO KONCHU

The Mikawa Insects Association



2007年 2月

〒444-3511  
岡崎市舞木町狐山6-4  
大平仁夫方  
三河昆虫研究会発行  
(郵便00830-9-14465)

## 三河大島のコメツキムシ類

大平・仁夫

三河大島は山崎・浅岡 (1993) が調査されているが、三谷海岸の沖3kmにある花崗岩からなる島で、周囲は約2kmで標高は40mあり、山頂部には大島秋葉神社がある。島全体は照・広葉樹林で覆われており、砂浜は船着場周辺に開けている。

また、この属島に小島と仏島の無人島が存在している。その他、この海岸一体はナメクジウオの生息地として、国の天然記念物に指定されている。

筆者は山崎隆弘氏の厚意で、2006年5月14日と7月12日の2回この島で採集する機会を得たので、その折りに得られたコメツキムシ類を報告する。

山崎・浅岡 (1993) の報告では、この島から8種記録されているが、筆者は10種の未記録種を見出すことができたので、その種については和名のあとに\*印を付した。

本文を草するにあたり、渡島について支援をいただいた山崎隆弘氏に心から感謝の意を表す。

### 種目録

1. *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (Motschulsky, 1861) サビキコリ

標本: 1♀, 14-V-06; 2♂♂2♀♀, 12-VII-06.

三河大島からは山崎・浅岡 (1993) が報告している。

2. *Agrypnus (Agrypnus) mikawaensis* Ôhira, 1896 ミカワサビキコリ\* (図1, A)

標本: 3exs., 14-VII-06.

三河湾の島からは、これが最初の記録である。

3. *Agrypnus (Colaulon) tsukamotoi* (Kishii, 1956) ハマベオオヒメサビキコリ

標本: 1♀, 14-V-06.

船着場の砂浜で見出した。この島からは山崎・浅岡 (1993) が記録している。

4. *Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1873) アカハラクロコメツキ\*

標本: 13exs., 14-V-06.

幼虫は松の朽木に入る。この島では松の朽木が見あたらないので、他の朽木の入っている可能性がある。三河湾の島嶼では山崎・浅岡 (1993) が篠島から記録しているのみである。

5. *Pectocera fortunei fortunei* Candèze, 1873 ヒゲコメツキ\*

標本: 1♂1♀, 14-V-06.

幼虫は広葉樹の朽木の樹皮下などに入り、捕食性である。

6. *Mulsanteus junior junior* (Candèze, 1873) ヒゲナガコメツキ\*

標本: 1♂, 14-V-06.

山崎・浅岡 (1993) が竹島、幡豆沖ノ島、佐久島、佐久弁天島から記録しているのみである。

7. *Dolerosomus gracilis* (Candèze, 1873) キバネホソコメツキ\*

標本: 1♀, 14-V-06.

春から初夏に花上で見られる種である。三河湾の島嶼からはこれが最初の記録である。

8. *Agriotes ogurae ogurae* Lewis, 1894 オグラカバイロコメツキ\* (図1, C)

標本: 1ex., 12-VII-06.

三河湾の埋立地では大平 (2005) が豊橋市明海町、大平 (1993) が豊橋市新西浜町、蒲郡市浜町などから記録し、形態や生態などもまとめている。

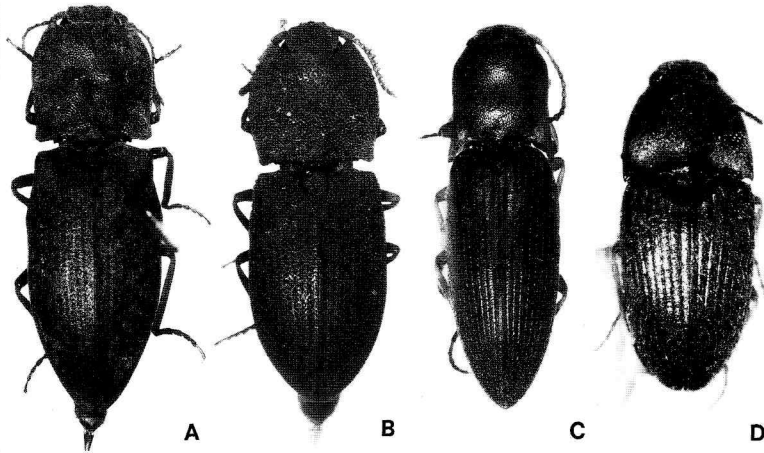


図1 A. ミカワサビキコリ  
C. オグラカバイロコメツキ

B. ハマベオオヒメサビキコリ  
D. シラチチビミズギコメツキ

三河湾の島嶼からはこれが最初の記録である。

9. *Malnotus (Melanotus) legatus legatus*

Candèze, 1860 クシコメツキ

標本：7♀♀, 14-V-06.

各地に普通の種である。三河湾の島嶼からは山崎・浅岡 (1993) が三河大島を始め、多くの島から記録している。

10. *Melanotus (Melanotus) erythropygus*

Candèze, 1873 コガタクシコメツキ\*

標本：1♂, 14-V-06.

山崎・浅岡 (1993) は三河湾の多くの島嶼から記録しているが、三河大島からはこれが最初の記録である。

11. *Melanotus (Spheniscosomus) cete cete*

Candèze, 1873 アカシオオクシコメツキ

標本：2♂♂8♀♀, 14-V-06.

この島の山林ではよく見出された。山崎・浅岡 (1993) は三河湾の多くの島嶼から記録している。

12. *Zoroachros (Yamatostris) albipilis*

(Candèze, 1873) シラケチビミズギワコメツキ (図1, D)

標本：13exs., 14-V-06; 1ex., 12-VII-06.

5月のときには、船着き場の砂浜で多くの個体が発生していたが、7月のときには僅か1頭を見出したのみである。山崎・浅岡 (1993) は、三河大島と幡豆沖ノ島から記録している。

13. *Paracardiophorus sequens sequens*

(Candèze, 1873) アカアシコハナコメツキ\*

標本：9♂♂3♀♀, 14-V-06; 1♀, 12-VII-06.

海浜の砂地帯に分布する種であるが、最近の砂浜の汚濁や護岸工事などで本種の生息場所が減少している。大平・浅岡 (1976) が三河大島と幡豆沖ノ島から記録しており、山崎・浅岡 (1993) は前島、幡豆沖ノ島、梶島、佐久島、佐久弁天島から記録している。

14. *Displatynychus adjutor* (Candèze, 1873)

アカアシハナコメツキ\*

標本：1♂, 14-V-06.

低地の山林に見出される種で、ときに小集団で発生している。

15. *Cardiophorus pinguis* Lewis, 1894

クロハナコメツキ\*

標本：1♂1♀, 14-V-06.

雑木林性の種である。ピーテングして見出した。

あとがき

この三河大島から以上の15種を記録したが、このうちの10種は未記録の種であった。また、山崎・浅岡 (1993) が記録している種のうちの、ウバタマコメツキ、マダラチビコメツキ、コハナコメツキの3種はこのたびの調査では見出すことができなかったが、この記録を加えると三河大島から18種記録されたことになる。しかし、この島固有種はいない。

三河大島はアサリ採りや神社の祭りと夏期のキャンプ場の間だけ船便があるだけで、一年の大部分が無人島であるので、島はよく清潔に保たれているため、内陸部ではあまり見かけなくなった種が分布している。また、島の森林は社寺林として保存され、森林はよく繁茂している。三河湾の島としては昆虫類の多い魅力のある島の一つと思われるが、島には河川が存在しないので、水生昆虫類は少ない。

### 引用文献

大平仁夫 (1993) オグラカバイロコメツキ豊橋市に分布。虫譜. 43 (2) : 25-26.  
 大平仁夫 (2006) オグラカバイロコメツキの形態と生態。越佐昆虫同好会報. (95) : 21-28.  
 大平仁夫・浅岡孝知 (1976) 愛知県のコメツキムシ (北設山岳地帯を中心にして) 茶臼山高原道路建設予定地の自然環境調査報告書 : 141-153.  
 山崎隆弘・浅岡孝知 (1993) 三河湾・島の昆虫 : 469pp. (山崎・浅岡自刊)

## 宝飯郡音羽町でのベイトトラップで得られた甲虫類について

鈴木 栄 二

筆者は2006年9月中旬に宝飯郡音羽町長沢地内の林道で牛糞によるトラップを実施した。その際に確認できた若干の甲虫類について報告する。

### 1 オオセンチコガネ

*Phelotrupes (Chromogeotrupes) auratus auratus*  
 13-IX-2006 (1♂) ; 16-IX-2006 (1♂1♀)

三河地方では本宮山を中心に分布することが知られている (松野他 1990)。大平 (2004) は、岡崎市からも得ている。

### 2 センチコガネ

*Phelotrupes (Eogeotrupes) laevistriatus*  
 13-IX-2006 (3♂2♀) ; 16-IX-2006 (4♂3♀)  
 すべての個体が赤みを帯びた紫色であった。

### 3 ゴホンダイコクコガネ

*Copris (Copris) acutioidens* (図A)  
 13-IX-2006 11♂11♀ ; 16-IX-2006 (10♂6♀)

分布の概要は作手から本宮山が中心 (松野他 1990) であるが、大平 (2004) は、岡崎市からも得ている。獣糞に集まるため、鹿や猪との分布の係わりが推測されるといわれている。

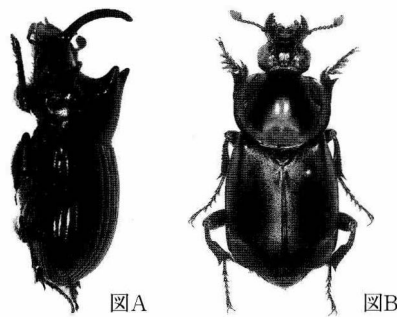
### 4 カドマルエンマコガネ

*Onthophagus (Stranāius) lenzii*  
 13-IX-2006 6♂ ; 16-IX-2006 (4♂2♀)  
 大平 (2004) は、ライトトラップにより得ている。

### 5 クロシデムシ (図B)

### *Nicrophorus concolor*

13-IX-2006 (1ex.)  
 トラップの付近の落ち葉の下から得た。  
 本報告をするにあたり、大平仁夫先生にはたいへんお世話になった。心から感謝申し上げる。



### 参考文献

大平仁夫 (2004) オオセンチコガネを岡崎市で採集。三河の昆虫 (51) : 573.  
 大平仁夫 (2004) ゴホンダイコクコガネ岡崎市に分布。三河の昆虫 (51) : 585.  
 大平仁夫・山崎隆弘・浅岡孝知 (2005) 音羽町史 自然資料 : 247-249. (音羽町)  
 三井信矢・堀 繁久・河原正和・稲垣政志 (2005) 日本産コガネムシ上科図説 第1巻 食糞群。松野更一・伴 憲隆・穂積俊文 (1990) 愛知県の昆虫 (上) : 339-361. (愛知県)

# 長野県開田高原の若干のカメムシ類

浅岡孝知

長野県木曾郡に位置する開田高原は、標高1100mから1600mくらいまで幅のあるところで、リゾート地としてもよく知られている。平成の大合併により開田村から木曾町の行政区分となった。名古屋圏からも近く、また御嶽山信仰としても有名であり、多くの人を訪れている。特に10月の第一日曜日はそば祭りで大にぎわいのようである。

この雄大な自然を満喫できる開田高原に、平成17年8月7日案内役の本会員豊島健太郎氏と大平仁夫博士、大場裕一博士、堤髪玲子氏と行動を共にして調査をしてきた。その後、平成18年7月16日にも機会を得たので同地を調査して来た。異翅目の結果を報告したい。なお、平成17年8月7日には、隣の岐阜県の日和田高原(現高山市)でライトトラップを実施し、晩夏の昆虫の飛来を楽しむことができた。いろいろとお世話になった豊島氏に感謝を申し上げる。

1. 採集方法…主にピーティング法。
2. 採集場所…主に林道冷川線沿い標高約1200m地点とマイヤースキー場手前標高約1500m地点。
- 3 調査結果…調査標本を基に目録にまとめ、若干の解説を加えた。

## 目 録

### ハナカメムシ科 Anthocoridae

- 1) クロハナカメムシ  
*Anthocoris japonicus* Poppius,1909  
調査標本：7-VIII-2005.1ex.

### カスミカメムシ科 Miridae

- 1) オオモンキカスミカメ  
*Deraeocoris olivacens* (Fabricius,1777)  
調査標本：16-VII-2006.1ex.
- 2) シロテンツヤカスミカメ  
*Deraeocoris palchellus* (Reuter,1906)  
調査標本：7-VIII-2005.1ex.

- 3) フタモンカスミカメ  
*Adelphocoris variabilis* (Uhler,1896)  
調査標本：7-VIII-2005.1ex.
  - 4) アシアカクロカスミカメ  
*Arbolygus rubripes* (Jakovlev,1876)  
調査標本：16-VII-2006.1♂.
  - 5) モンキカスミカメ  
*Orientomiris gothicus* (Linnaeus,1758)  
調査標本：7-VIII-2005.1ex.16-VII-2006.3exs.
  - 6) オオチャイロカスミカメ  
*Creotiadetes tricolor* (Scott,1880)  
調査標本：7-VIII-2005.1ex.
  - 7) コアオカスミカメ  
*Apolygus lucorum* (Meyer-Dur,1843)  
調査標本：16-VII-2006.1ex.
  - 8) ナガミドリカスミカメ  
*Lygocoris pabulinus* (Linnaeus,1761)  
調査標本：16-VII-2006.1ex.
  - 9) アカアシカスミカメ  
*Onomaus lautus* (Uhler,1896)  
調査標本：16-VII-2006.1ex.
  - 10) フタスジカスミカメ  
*Stenotus binotatus* (Fabricius,1794)  
調査標本：16-VII-2006.1♂5♀.
  - 11) クロマルカスミカメ  
*Orthocephalus funestus* Jakovlev,1881  
調査標本：7-VIII-2005.1♀.16-VII-2006.1♂1♀.
  - 12) ホソヒョウタンカスミカメ  
*Pilophorus erraticus* Linnavuori,1962  
調査標本：7-VIII-2006.1ex.
  - 13) ヒョウタンカスミカメ  
*Pilophorus setulosus* Horvath,1905  
調査標本：7-VIII-2005.1ex.16-VII-2006.2exs.
- マキバサシガメ科 Nabidae
- 1) ハラビロマキバサシガメ

*Himacerus apterus* (Fabricius,1798)

調査標本：7-VIII-2005.6exs.

ゲンバウムシ科 Tingidae

1) キクゲンバイ *Galeatus spinifrons* (Fallen,1807)

調査標本：7-VIII-2005.2exs.

ナガカメムシ科 Lygaeidae

1) ヤスマツナガカメムシ

*Pylorgus yasumatsui* Hidaka et Izzard,1960

調査標本：16-VII-2006.1ex.

2) アムールシロヘリナガカメムシ

*Panaorus csikii* (Horvath,1901)

調査標本：7-VIII-2005.1ex.

ホソヘリカメムシ科 Alydidae

1) ヒメクモヘリカメムシ

*Paraplesius unicolor* Scott,1874

調査標本：7-VIII-2005.1ex.

ヒメヘリカメムシ科 Rhopalidae

1) スカシヒメヘリカメムシ

*Liorhyssus hyalinus* (Fabricius,1794)

調査標本：16-VII-2006.1ex.

2) アカヒメヘリカメムシ

*Rhopalus (Aeschynteles) maculatus* (Fieber,1836)

調査標本：16-VII-2006.1ex.

3) ブチヒゲヘリカメムシ

*Stictopleurus punctatonervosus* (Goeze,1773)

調査標本：7-VIII-2005.1ex.

カメムシ科 Pentatomidae

1) トゲカメムシ

*Carbula humerigera* (Uhler,1860)

調査標本：16-VII-2006.2exs.

2) アオクチブトカメムシ

*Dinorhynchus dybowskyi* Jakovlev,1876

調査標本：7-VIII-2005.1ex.

長野県各地で見出されている。

3) エゾアオカメムシ

*Palomena angulosa* (Motschulsky,1861)

調査標本：7-VIII-2005.1ex.

長野県では普通種である。

4) ムラサキカメムシ

*Carpocoris purpureipennis* De Geer,1773

調査標本：16-VII-2006.3exs.

5) ヒメカメムシ

*Rubiconia intermedia* Wolff,1811

調査標本：7-VIII-2005.1ex.

6) オオトゲシラホシカメムシ

*Eysarcoris lewisi* (Scott,1833)

調査標本：7-VIII-2005.1ex.,16-VII-2006.1ex.

ツノカメムシ科 Acanthosomatidae

1) モンキツノカメムシ

*Satragala scutellata* (Scott,1874)

調査標本：16-VII-2006.1ex.

### 要 約

調査により9科24種を確認することができた。愛知県では得がたい寒地系の種アオクチブトカメムシ・ムラサキカメムシ・ヒメカメムシなどが見出されている。

ライトトラップを実施した岐阜県高山市の日和田高原では、やや涼しい天候にも関わらずアジアカカメムシ・ツノアオカメムシ・トゲカメムシ・アオクチブトカメムシ・シロバフトカスミカメなどが得られ、開田高原の生息種と若干の異なりが認められた。コウチュウ目では、オニクワガタ・ヒメクロシデムシ・セマダラコガネなどが飛来してきたが種数としては少ないようである。



図1 宿とした開田高原のペンション「ノアノア」

### 参考文献

開田村役場 (1980) 開田村誌, 上巻: 60-87.

# 三河港臨海地のゾウムシ類

山崎 隆弘

## はじめに

愛知県の三河湾東部の三河港造成地は、田原市・豊橋市・宝飯郡御津町・蒲郡市にまたがる埋立造成地である。近年、港湾施設や工場、観光施設、公園などを中心に整備されてきたが、現在も埋立工事が一部で行われている。自然環境的には、草地、緑地帯、荒地、人工池、湿地などがある。

筆者はここ数年来、当地域で甲虫類の調査を行ってきた。これまでにハムシ科、テントウムシ科について報告したが、今回はゾウムシ類について報告したい。この稿を草するにあたり、大変お世話になった大平仁夫博士、伊澤和義氏、浅岡孝知氏に対し、厚くお礼申し上げる。

## 採集品目録

採集品はすべて筆者自身である。同一産地においては一例のみとした。標本は筆者が保管している。

### ホソクチゾウムシ科 Apionidae

日本から18種の記録がある。食植性で湿地や草地に見られる。

#### 1) ギシグシクチボソゾウムシ

*Apion violaceum* Kirdy, 1803

蒲郡市浜町亀岩公園, 24-VI-2006, 1ex.; 御津町安礼の崎, 22-IV-2006, 10exs.; 田原市白磯, 24-IV-2005, 2exs.

記録地では多数の個体が見られた。白磯ではそのほかにも採集例がある。

### ゾウムシ科 CURCULIONIDAE

種類が多く、日本に780種ほどが記録されている。近似種や小形種が多いため未記録種も少なくない。多くが植物との関係が深く、森林や穀物の害虫としても注目すべきグループである。

#### 1) カシワクチプトゾウムシ

*Myllocerus griseus* Roelofs, 1873

豊橋市新西浜町, 27-V-2005, 1ex.

各地に多い普通種であるが、埋立造成地からは新西浜町で得たのみである。

#### 2) ケブカクチプトゾウムシ

*Myllocerus fumosus* (Haust., 1882)

豊橋市新西浜町, 13-VI-2005, 2exs.

植栽林から得たが少ない。[図1.A]

#### 3) コカシワクチプトゾウムシ

*Macrocorynus griseoides* (Zumpt, 1937)

豊橋市新西浜町, 24-VI-2005, 1ex.

植栽林から得たが埋立造成地では少ない。

#### 4) ヒレルクチプトゾウムシ

*Oedophrys hillei* (Faust, 1889)

御津町佐脇浜, 17-IV-2005, 2exs.; 安礼の崎, 10-IX-2005, 1ex.

暖地系の普通種である。佐脇浜ではそのほかにも採集例がある。[図1.B]

#### 5) チビメナガゾウムシ

*Calomycterus setarius* Roelofs, 1873

田原市白磯, 24-VI-2006, 2exs.

本州以南に分布するが多くない。白磯は新規の造成地であるが、草地に灌木類が混じる環境である。

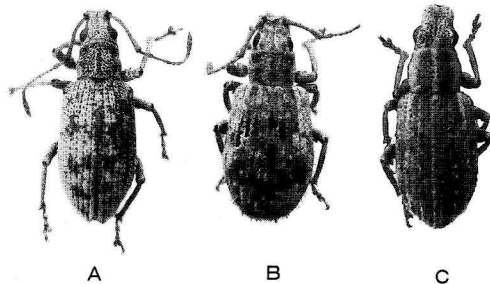


図1. 三河港臨海地で採集したゾウムシ類1

A, ケブカクチプトゾウムシ (体調, 5.5mm)

B, ヒレルクチプトゾウムシ (体調, 4.0mm)

C, チビコフキゾウムシ (体調, 4.5mm)

6) チビコフキゾウムシ

*Sitona japonicus* Roelofs,1873

豊橋市新西浜町,17-IV-2005,1ex.,神野ふ頭町,19-VI-2005,2exs.

植栽林脇の草地で得たが、神野ふ頭町ではそのほかにも採集例がある。[図1,C]

7) トビイロヒョウタンゾウムシ

*Scepticus uniformis* Kono,1930

御津町安礼の崎,9-V-2005,3exs.;豊橋市新西浜町,27-VI-2006,3exs.

海浜性の種である。

8) サビヒョウタンゾウムシ

*Scepticus griseus* (Roelofs,1873)

豊橋市新西浜町,27-VI-2006,1ex.

本州以南に分布する種である。新西浜町の新規の造成地で得た。

9) ワモンヒョウタンゾウムシ

*Sympiezomias lewisi* (Roelofs,1879)

御津町安礼の崎,24-VI-2005,1ex.

暖地系の普通種である。埋立造成地では今のところ個体数は少ない。

10) スグリゾウムシ

*Pseudocneorhinus bifasciatus* Roelofs,1879

蒲郡市浜町亀岩公園,24-VI-2006,1ex.;御津町御幸浜,3-VI-2005,4exs.,安礼の崎,9-VI-2005,1ex.,佐脇浜,14-VI-2005,2exs.;豊橋市新西浜町,27-V-2005,3exs.,神野ふ頭,2-VII-2006,1ex.;田原市白磯,10-IV-2005,1ex.

分布域の広い種で、埋立造成地全域に多く見られる。亀岩公園・安礼の崎・新西浜町・神野ふ頭町ではそのほかにも採集例がある。

11) コフキゾウムシ

*Eugnathus distinctus* Roelofs,1873

御津町御幸浜,23-V-2005,2exs.;豊橋市新西浜町,13-VI-2005,1ex.,神野新田町総合スポーツ公園,20-VI-2005,1ex.

埋立造成地ではクズが多くあるので、これに依存する本種は早期に定着した種の一つと思われる。

12) アルファルファタコゾウムシ

*Hypera postica* (Gyllenhal,1813)

蒲郡市海陽町,6-IX-2004,1ex.;御津町佐脇浜,9-V-2005,6exs.;豊橋市新西浜町,27-V-2005,1ex.,吉前町海岸草地,12-X-2005,2exs.,神野ふ頭町,5-VII-2005,1ex.

帰化昆虫であるが、造成地ではほぼ全域に定着している。佐脇浜・新西浜町ではそのほかにも採集例がある。[図2,A]

13) ハコベタコゾウムシ

*Hypera basalis* (Voss,1937)

御津町佐脇浜,17-IV-2005,3exs.草地で得た。

比較的普通の種であるが、造成地ではこれのみであった。[図2,B]

14) オオタコゾウムシ

*Hypera Punctata* (Fabricius,1775)

蒲郡市海陽町,3-VII-2005,1ex.;豊橋市神野新田町総合スポーツ公園,10-IX-2006,1ex.

伊澤氏の同定を受けた。1980年代初め頃、国内で発見された移入種で、クローバーの害虫とされている。その後各地に広まった。造成地では2ヶ所で確認することができた。[図2,C]

15) ミスジマルゾウムシ

*Phaeopholus ornatus* Roelofs,1873

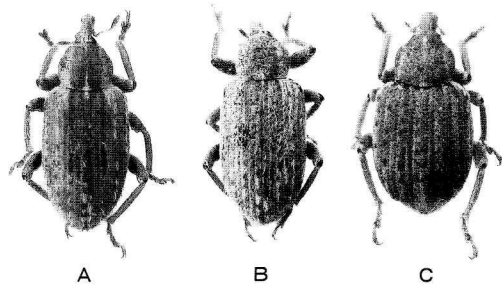


図2. 三河港臨海地で採集したゾウムシ類2  
A, アルファルファタコゾウムシ (体調, 5.0mm)  
B, ハコベタコゾウムシ (体調, 5.0mm)  
C, オオタコゾウムシ (体調, 8.0mm)

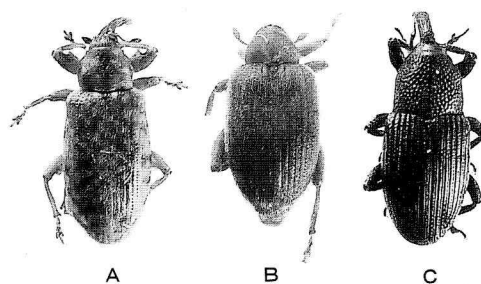


図3. 三河港臨海地で採集したゾウムシ類3  
A, モンイネゾウモドキ (体調, 4.5mm)  
B, ヤドリノミゾウムシ (体調, 3.5mm)  
C, エゾヒメゾウムシ (体調, 4.0mm)

蒲郡市浜町亀岩公園,24-VI-2006,1ex.

埋立造成地には本種との関係が深いタブノキが多数植栽されており、今後見出される可能性の高い種である。

16) カツオゾウムシ

*Lixus impressiventris* Roelofs,1873

蒲郡市海陽町,17-VI-2005,1ex.

普通の種であるが、埋立造成地では多くない。

17) ハスジカツオゾウムシ

*Lixus acutipennis* (Roslofs1873)

蒲郡市浜町蒲郡埠頭,19-VI-2005,1ex.; 豊橋市新西浜町,3-VII-2005,1ex., 杉山町中藻,21-IV-2005,1ex.

ヨモギにきわめて普通の種である。新西浜町・杉山町中藻ではそのほかにも採集例がある。

18) カシアシナガゾウムシ

*Mecysolobus piceus* (Roelofs,1875)

御津町御幸浜,3-VI-2005,1ex.

暖地系の種であるが埋立造成地では少ない。植栽林から得た。

19) モンイネゾウムシ

*Dorytomus maculipennis* Roelofs,1874

田原市緑ヶ浜,30-IV-2005,4exs.

ヤナギ類に多くの個体があった。[図3,A]

20) カシワノミゾウムシ

*Rhynchaenus japonicus* (Hustache,1920)

豊橋市神野新田町総合スポーツ公園,10-IX-2006,2exs.

植栽林から得た。

21) ヤドリノミゾウムシ

*Rhynchaenus hustschei* Klima,1935

御津町佐脇浜,13-VI-2005,4exs.; 豊橋市新西浜町,24-VI-2005,1ex.

佐脇浜ではそのほかにも採集例がある。[図3,B]

22) エノキノミゾウムシ

*Rhynchaenus horii* Kôno,1937

豊橋市杉山町中藻,24-V-2005,4exs.

伊澤氏の同定を受けた。中藻のエノキには多数の個体が見られた。そのほかにも採集例がある。

23) イチゴハナゾウムシ

*Anthonomus bisignifer* Schenkling,1934

豊橋市新西浜町,17-IV-2006,1ex.; 田原市緑ヶ

浜,30-IV-2005,2exs.

普通の種である。

24) エゾヒメゾウムシ

*Baris ezoana* Kono,1940

御津町安礼のの崎,3-VI-2005,2exs.; 田原市新西浜町,27-V-2005,1ex.; 豊橋市杉山町中藻,21-IV-2005,4ex.

ヨモギに多数見られた。安礼の崎ではそのほかにも採集例がある。[図3,C]

25) ギシギシクチプトサルゾウムシ

*Rhinoncus jacovievi* Faust,1893

御津町安礼のの崎,22-IV-2006,1ex.; 豊橋市神野ふ頭町,2-VII-2005,1ex.

ギシギシに普通である。各種確認においては、いずれも多くの個体が見られた。

26) カナムグラサルゾウムシ

*Ceutorhynchus shaowuensis* Voss,1958

御津町安礼のの崎,3-VI-2005,1ex.

伊澤氏の同定を受けた。カナムグラに多くいるものと思われるが、埋立造成地で確認したのはこれのみである。[図4,A]

27) ヒサゴクチカクシゾウムシ

*Simuratacalles simulator* (Roelofs,1875)

豊橋市新西浜町,24-VI-2005,1ex.

愛知県では記録の少ないものである。植栽林から得た。

28) ニセマツノシラホシゾウムシ

*Shirahoshizo rufescens* (Roelofs,1875)

蒲郡市浜町亀岩公園,24-VI-2006,1ex.; 豊橋市新西浜町,19-VI-2005,1ex.

埋立造成地では多くない。

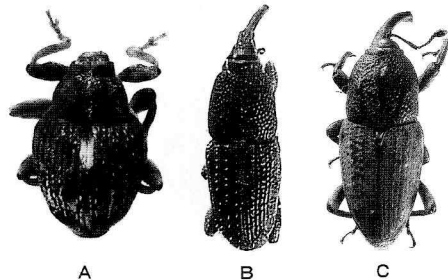


図4. 三河港臨海地で採集したゾウムシ類4

A, カナムグラサルゾウムシ(体調, 3.0mm)

B, コクゾウムシ(体調, 2.5mm)

C, シバオサゾウムシ(体調, 7.5mm)



## オサゾウムシ科 Dryophthoridae

日本では39種が知られている。

## 1) コクゾウムシ

*Sitophilus zeamais* Motschulsky, 1855

御津町安礼の崎, 3-VI-2005, 1ex.

伊澤氏の同定を受けた。原産地は南米ギニアである。[図4.B]

## 2) シバオサゾウムシ

*Sphenophorus venatus* Chittenden, 1904

豊橋市新西浜町, 27-V-2005, 1ex.

細菌、各地で報告されるようになった帰化昆虫である。植栽林から見出したが、埋立造成地からはこの一例のみである。[図4.C]

## 要約

1. 三河湾埋立造成地からゾウムシ類のうち、ホソクチゾウムシ科1種、ゾウムシ科28種、オサゾウムシ科2種について報告した。

2. 近年各地で分布を広げている帰化昆虫の、オオタコゾウムシ・アルファルファタコゾウムシ・シバオサゾウムシを確認した。

## おわりに

人工造成地は年月とともに隣接地の自然環境に近づいてくるのが普通である。昆虫類は人為的に運ばれたもの、風によって運ばれたもの、植林の材料に付いてきたもの、海流によって漂着したもの、自力で飛来したもの、外国からの船舶に付着して運ばれたものなどがあり、条件が合えば新天地に定着し繁殖してゆく。種によってはむしろこのような環境を好み周辺部へは広がらずにいるものもあると思われる。こうしたことからすれば、独特な昆虫相の見られる場所となりうることも考えられる。したがって、今後においても、当地域は実に興味深い場所と言えよう。

## 参考文献

- 1) 環境庁編 (1995) 日本野生生物目録, 財団法人自然環境研究センター。
- 2) 穂積俊文 (1990) 愛知県の中虫類 (II) 愛知県の昆虫 (上) : 434-460. (愛知県)

## 豊橋市でウスバカマキリを採集

小野田 憲・長谷川道明

ウスバカマキリ *Mantis religiosa* Linné は、愛知県下では個体数の少ないカマキリで、採集記録もあまり多くは残されていないと思われる。岡田 (1990) には、犬山市、祖父江町、名古屋市、長久手町、高浜市、豊田市が記録産地として掲載されているが、東三河が空白になっている。小野田は、2006年に下記のように豊橋市の市街地において、本種を採集しているので報告する。

1 ♀, 豊橋市駅前大通一丁目, 12-IX-2006, 小野田憲採集 (豊橋市自然史博物館保管 TMNH-I-21098) 歩道上にいるものを採集した。

なお、豊橋市自然史博物館には、以下の愛知県産ウスバカマキリが保管されているので、あわせて報告したい。

1 ♂, 犬山市赤坂, 24-IX-1972, 安藤 尚採集寄贈 (TMNH-I-21097)。

1 ♂, 弥富町鍋田川河口, 24-IX-1995, 長谷川道明採集 (TMNH-I-21096)。

## 引用文献

岡田正哉 (1990) 愛知県のカマキリ目, 愛知県の昆虫, (上), 82-83.

# 矢作川流域のジュウジミズギワコメツキの生存記録

岩 月 学

ジュウジミズギワコメツキ *Fleutiauxellus cruciatis* (Candèze, 1873) は、愛知県では絶滅危惧種(環境庁リスト外)に指定されている。

その主な理由は、

- 1) 大きな川の河川敷に生息しているが、生息場所はどこも小範囲で、最近では河川の護岸工事や砂礫の採取、水辺の水や環境汚濁で減少している。
- 2) 愛知県内で現在でも生息が確認されている場所は、豊川下流域のごく一部の河川敷のみで、しかも個体数が限られている。などの理由によるものである。

筆者は2006年、別の目的で矢作川河川敷での調査をし、たまたま本種を見出し、大平仁夫氏に同定していただき、その重要性について教示を頂いた。また、念のため、豊田市の南部を調査したところ、そこでも見出すことができた。本種は岡崎市では46年ぶりの再記録であり、豊田市内では初記録である。

本文をまとめるにあたり、ご教示をいただいた大平仁夫氏、参考資料を恵与していただいた浅岡孝知氏に感謝申しあげる。

◇**分布の既知産地**：1. 矢作川 [岡崎市矢作町：1960・大平仁夫；西尾市伊藤町：1973・加藤忠和]。豊川 [豊橋市：1990・大平仁夫；豊橋市加茂町：1991, 1994・浅岡孝知；同上、2005・大平

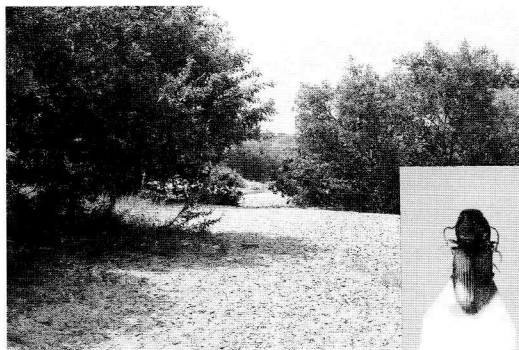


図2. 敵部東部の採集地とジュウジミズギワコメツキ(右下)

仁夫；豊田市向河原：1993・大平仁夫]。しかし、矢作川からの記録はない。このたび、岡崎市渡町矢作川右岸(28-V-2006, 1ex.; 20-VI-2006, 2exs.)と豊田市敵部東町矢作川右岸(4-VII-2006, 2exs.)を採集した。

◇**採集方法**：河川敷に生えているヤナギの下枝

を叩網採集で見出した。河川敷にはアカメヤナギ、タチヤナギ、カワヤナギの3種が多く見られ生育もよい。しかし、ネコヤナギは僅かである。

◇**考察**：記録の個体数は、本種の採集が目的ではなかったので、次ぎのような問題点がある。

1. 岡崎市渡町右岸の河川敷にはクロスジクチボソコメツキ *Glyphonyx dalopoides* Nakane が多いので、最初は識別しないで採集したので、入ったのを放していた。
2. 豊田市敵部東町右岸では、本種が採集できればと軽く考えて、採集を簡単に打ち切った。したがって1, 2とも実際は記録より多くの個体が生息していたと考えられる。

◇**生息環境**：1960年ころの矢作川河川敷は、砂地や草地在るところにあって、ミズギワコメツキ類も多くの種が発生していた。最近では河川敷が整備されて、これらの種がほとんどみられなくなっていると大平氏が記述されているが、国道1号線の南北は、ヤナギの根元は草が覆っていて、踏み込めない状況である。渡町あたりでは、ヨシやオギなどが、2~3年で砂地を覆ってしまう状況であり、こうした河川敷の砂地帯の草地化が大きな問題である。それでも、岡崎市の天神橋、岡崎大橋付近や豊田市の渡川橋や水源町などはまだ砂地が残っている。なお、矢作川上流の豊田市西広

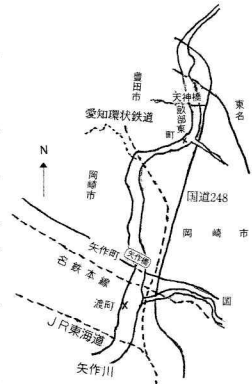


図1. 採集地の概要

瀬町や百月町での調査(2006)では、本種が採集できなかった。



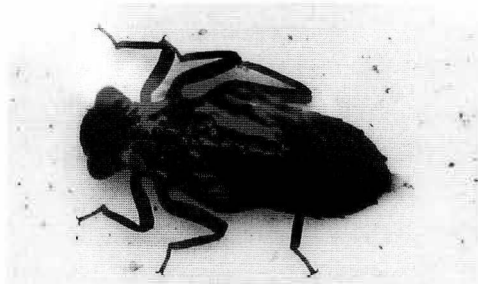
図3. 渡町の河川敷の草地化

### 参考文献

岡崎市 (1985) 新編岡崎市史・自然 14: 1-1060.  
 愛知県昆虫分布研究会 (1994) 愛知の昆虫 (上).  
 (別刷)  
 大平仁夫 (1991) 三河の昆虫, 38: 320-321.  
 大平仁夫 (1998) 鳳来寺山自然科学博物館館報, (27): 1-4.  
 豊川市 (1998) 新編豊川市史 (自然資料): 240.  
 豊橋市 (1999) 豊橋市自然環境保全基礎調査報告書  
 資料編.  
 愛知県 (2002) レッドデータブックあいち (動物編): 202.

## ムカシトンボ幼虫の記録

小 鹿 亨 ・ 小 鹿 登 美



新城市作手保永 (2006.8.1)

筆者らは、新城市の西部に位置する本宮山の山麓で、ムカシトンボ *Epiophledia superstes* (SELYS) の幼虫を観察しているので、本種の分布記録として報告する。

《データ》ムカシトンボ (幼虫 1ex.) 2006年8月1日: 愛知県新城市作手保永。

当日は、安城市立今池小学校の5年生のキャンプで、筆者らが溪流の水生生物の観察を指導していた際に、5年生の児童の一人が見つめてきたものである。大きさから判断して、ほぼ終令であると考えられる。

現場はスギやヒノキの植林に囲まれた溪流で、川幅は3~4m程度、水かさは20cmに満たない場所がほとんどで、川底はほとんどがレキであった。プラナリアやサワガニなどが普通に見られ、カゲロウ類・カワゲラ類・トビケラ類などの水生昆虫も多く見られた。

## 豊田市阿摺ダムでナガサキアゲハを目撃

小 鹿 亨

ナガサキアゲハ *Papilio memnon* LINNAEUS は、気候の温暖化に伴って、近年分布を東進・北上させていることが知られ、すでに本県内においても低地を中心にいくつかの記録が出ている。しかしながら、山間部などでは、目撃できる数は必ずしも多くない。筆者は本種を豊田市阿摺ダムの

付近で目撃しているので、記録として報告する。

《データ》ナガサキアゲハ (1♂目撃) 2006年8月27日: 豊田市矢作川阿摺ダム。

# 旧豊田市で記録が少ない種類についての報告

吉 鶴 靖 則

筆者は豊田市自然観察の森に勤務するレンジャーであり、採集禁止とされている自然観察の森と、その周辺地域の調査を担当している。2006年は自然観察の森内の昆虫相を解明するような大がかりな調査を行っていないが、当地区の昆虫相を明らかにしていく必要があるため、一部で気がついた種類を撮影・採集する機会を得ている。2005年4月に合併する前の旧豊田市の昆虫相は、豊田市自然環境基礎調査報告書によくまとめられているが、その発行後に記録が少ない種類を得る機会があったので、ここに報告する。また筆者が関わった調査で既に豊田市自然観察の森及び周辺地域基本計画報告書に発表した内容であるが、目につきづらい資料であるため、ここに記録が少ない種類、貴重な種類を再録し、当地区の昆虫相を考える一助としたい。再録した種類には個体データの末尾に(再)をつけている。

なお目録に採集者名が記されているものは自然観察の森のスタッフによるものである。また採集地はすべて豊田市であるため、市名を省略した。標本は2006年以降に採集したものは豊田市自然観察の森に、それ以前のは豊田市矢作川研究所に保管されている。採集以外による確認行為は個体データの末尾にその旨を記した。

末尾であるが、コオイムシを同定していただいた矢崎充彦氏に厚くお礼申し上げる。

## カマキリ目 MANTODEA

### ヒメカマキリ科 Acromantidae

ヒメカマキリ *Acromantis japonica* Westwood  
京ヶ峰二丁目, 7-XI-2006, 1♀ (撮影)

## カメムシ目 HEMIPTERA

### サシガメ科 Reduviidae

ヒゲナガサシガメ *Endochus stalianus* Horváth

市木町南山, 4-VI-2006, 1ex. (撮影)

### アメンボ科 Gerridae

オオアメンボ *Aquarius elongatus* (Uhler)

古瀬間町大日影, 24-VII-2004, 1ex. (再)

### コオイムシ科 Belostomatidae

コオイムシ *Appasus japonicus* Vuillefroy

古瀬間町大日影, 24-VII-2004, 2ex. (再) ; 市木町南山, 17-X-2006, 1♀ (捕獲: 野見小学校児童、同定後放虫) (共に同定: 矢崎充彦)

### タイコウチ科 Nepidae

ヒメタイコウチ *Nepa hoffmanni* Esaki

古瀬間町配添, 13-VI-2004, 1ex. (再) ; 古瀬間町大日影, 10-IX-2004, 1ex. (再) ; 矢並町百伏, 2-XI-2006, 1ex. (撮影)

## シリアゲムシ目 MECOPTERA

### シリアゲムシ科 Panorpidae

ホソマダラシリアゲ *Panorpa multifasciaria* Miyake

京ヶ峰二丁目, 29-IX-2006, 1ex. (採集: 中尾文香)

## コウチュウ目 COLEOPTERA

### オサムシ科 Carabidae

クビボソゴミムシ

*Galerita orientalis* Schmidt Gobel

京ヶ峰二丁目, 1-VI-2006, 1ex. (採集: 中尾文香)

### ホタル科 Lampyridae

カタモンミナミホタル

*Drilaster axillaris* Kiesenwetter

京ヶ峰二丁目, 16-VI-2006, 1ex. (採集: 手嶋洋子)

### ハムシ科 Chrysomelidae

ユリクビナガハムシ

*Liliocoris merdigera* (Linnaeus)

京ヶ峰二丁目, 28-V-2006, 1ex.

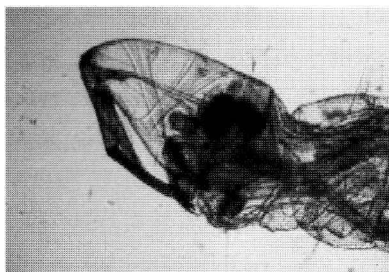
ゾウムシ科 Chrculionidae  
 スグリゾウムシ  
*Pseudocneorhinus bifasciatus* Roelofs  
 京ヶ峰二丁目,11-VII-2006,2exs.

参考文献

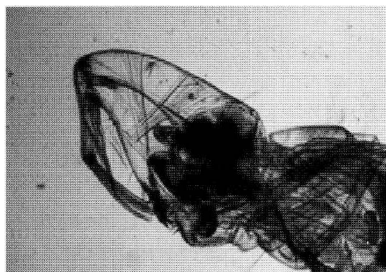
豊田市自然環境基礎調査会 (2005) 昆虫類. 豊田市自然環境基礎調査報告書 資料編. p.105-386. (豊田市)  
 間野隆裕 (2006) 参考資料 豊田市自然観察の森周辺昆虫調査. 豊田市自然観察の森及び周辺地域基本計画報告書. p.43-61. (豊田市)

# 豊田市滝脇町におけるフサカ類の記録

永野真理子・小鹿亨



*Chaoborus flavicans* (MEIGEN) の幼虫頭部



*Chaoborus* sp. の幼虫頭部

フサカ類は、双翅目フサカ科 (Diptera, Chaoboridae) に属し、各地の湖沼やため池などに生息することが知られている。日本における分布は広範囲におよぶと考えられるが、報告例も少なく、その概要はこのグループのファウナも含めて、明らかにされていない。

筆者らは、豊田市滝脇町七売池において以下のフサカ類の幼虫を記録しているので、分布記録として報告する。

《データ》 *Chaoborus flavicans* (MEIGEN)

幼虫 (小鹿採集・永野保管)

*Chaoborus* sp.

幼虫 (小鹿採集・永野保管)

2005年6月11日 豊田市滝脇町七売池

この産地は山林内にある小規模な池であり、周囲は二次林で囲まれている。池にはオオビワミジンコ *Daphnia pulicaria* FORBES などの鯰脚類が生息しており、フサカ類が、これらの動物プランクトンを捕食していることが推察できる。

フサカは幼虫で分類ができ、*Chaoborus flavicans* と *C. sp.* の大きな形態的な違いは Antenna の剛

毛刺の位置が前者は1/2、後者は2/3の位置に生えていることから、別種と同定ができる。なお、両種の出現の割合については、*C. flavicans* が93.7%と高いことが見いだされた。また、*C. flavicans* についての生態は、Nagano *et. al.* (2005) が報告している。七売池においては2種が共存する特異的な環境でもあり、どのような生態をもっているか興味深い。今後の長期的な調査が望まれる。

文 献

Nagano M., Tanaka M. & Yagi A. 2005. Vertical migration and horizontal distribution of *Chaoborus* larvae in Lake Fukami-ike. Japan Korean J. Limnol. 38:27-30  
 Saether, O.A. 1972. VI Chaoboridae. 257-280. in : Die Binnengewasser 26. ed. Thiemann, A  
 小鹿 亨. 2006. 大形のミジンコ *Daphnia pulicaria* Forbes の記録. ため池の自然 No. 42. ため池の自然研究会

# 岡崎市北部～豊田市南部地域における *Agrilus* 属のナガタマムシ類の記録

城 殿 浩

筆者は、近年になって採集法が分かってきたタマムシ類を自宅周辺で調査している。ここでは、愛知県からあまり記録がないナガタマムシ *Agrilus* 属が採集できたのでここに報告する。調査は主として岡崎市では村積山から北部で、豊田市では松平地域を中心で行った。採集者はすべて城殿本人である。

1. アオグロナガタマムシ *Agrilus vridiobscurus* E. Saunders  
標本：岡崎市真福寺町, 24-V-2004 (3exs.). 豊田市加茂川町, 19-V-2005 (3exs.); 同上, 14-V-2005 (3exs.). 岡崎市桑原町, 17-VI-2006 (3exs.).  
各種の広葉樹をスイーピングして採集した。
2. ネムノキナガタマムシ *A. surobustus* E. Saunders  
標本：豊田市岩倉町, 29-VII-2005 (2exs.).  
ネムノキの衰弱木のスイーピングで採集した。
3. クロナガタマムシ *A. cyaneoniger* E. Sanders  
標本：豊田市九久平町, 18-VI-2005 (1ex.); 同上, 23-VII-2005 (5exs.); 同上, 17-VI-2006 (3exs.). 岡崎市桑原町, 17-VI-2006 (1ex.).  
九久平町では伐採後のアベマキやコナラのひこばえで後食している個体が多く観察できた。
4. シラホシナガタマムシ *A. rokuyai* Lewis  
標本：豊田市九久平町, 21-VI-2005 (10exs.); 同上, 18-VI-2005 (3exs.); 同上, 23-VII-2005 (2exs.); 同上, 17-VI-2006 (1ex.).  
衰弱したエノキに集まる。幹を徘徊している個体や、衰弱したエノキのスイーピングで採集できた。
5. トガリカラカネナガタマムシ *A. alazon* Y. Kurosawa  
標本：豊田市九久平町, 18-VI-2005 (16exs.); 同上, 24-VI-2006 (2exs.). 豊田市大見町, 14-V-2005 (1ex.).  
伐採された新鮮なアベマキ材上に多い。
6. ミツボシナガタマムシ *A. trinotatus* E. Saunders  
標本：岡崎市真福寺町, 14-V-2005 (1ex.); 同上, 280-VI-2006 (1ex.).  
アラカシのスイーピングで採集した。
7. ホソアシナガタマムシ *A. tibialis* Lewis  
標本：豊田市九久平町, 24-VI-2006 (10exs.); 同上, 17-VI-2006 (1ex.); 同上, 24-VI-2006 (2exs.).  
九久平町では、伐採後のアベマキやコナラのひこばえで後食している個体が多く観察できた。
8. オオウグイスナガタマムシ *A. asiaticus* Kerremans  
標本：豊田市加茂川町, 14-V-2005 (6exs.). 豊田市九久平町, 24-VI-2006 (2exs.). 岡崎市桑原町, 17-VI-2006 (2exs.).  
アベマキやコナラをスイーピングして採集した。
9. ウグイスナガタマムシ *A. tempestivus* Lewis  
標本：豊田市加茂川町, 14-V-2005 (30exs.); 同上, 20-V-2006 (1ex.). 豊田市九久平町, 23-VII-2005 (2exs.). 岡崎市真福寺町, 14-V-2005 (1ex.). 岡崎市桑原町, 14-V-2005, 4exs.; 同上, 17-VI-2006 (2exs.).  
各種の広葉樹で採集できるが、アベマキやコナラに多い。
10. ヒメアサギナガタマムシ *A. hattorii* Nakane  
標本：豊田市加茂町, 14-V-2005 (2exs.); 同上, 18-VI-2005 (1ex.). 岡崎市桑原町, 14-V-2005 (2exs.); 同上, 27-V-2006 (1ex.); 同上, 17-VI-2006 (1ex.).  
アベマキやコナラをスイーピングして採集した。
11. アサギナガタマムシ *A. rotundicollis* E. Sanders  
標本：豊田市加茂川町, 14-V-2005 (1ex.); 同上, 29-IX-2006 (1ex.).  
アベマキやコナラをスイーピングして採集した。
12. ブドウナガタマムシ *A. marginicollis* E. Saunders  
標本：豊田市加茂川町, 29-IX-2006 (1ex.).
13. ツヤケシナガタマムシ *A. moerens* E. Saunders  
標本：豊田市大内町, 29-V-2004 (1ex.); 同上, 4-VI-2004 (1ex.).

放置されたカキのスイーピングで採集した。

以上13種が採集できた。記録を見て頂ければわかるが、伐採地があり、そのためにナガタムシ類が多く採集できた。一過性の発生ではあるが、伐採地ではかなりの個体が観察できた。

この地域は、二次林ではあるが、アバマキヤコ

ナラを主体とする落葉広葉樹林が多く残されているし、第二東名道路の建設予定地域でもある。これから始まる工事では、最小限の開発ですませて、森林を残していただきたいものである。

参考文献

愛知の昆虫(上). 1990. (愛知県農地林部自然保課)

# ユリクビナガハムシは山里の虫

岩月学

ユリクビナガハムシ *Lilioceris merdigera* (Linné) の生息確認を、本誌No.53に報告したが、平成18年7月、岡崎市小呂町と、やや離れた稲熊町で簡単に見付けることができた。



ユリクビナガハムシ (日影町06/7/13)

「山間の部落を廻ればよい」と考え調査した結果、市の北部～東部にかけて多くの場所に生息し、ごく普通に見られることが確認され、食草についても若干の知見を得たので、再度報告しておく。

なお、前回報告した3か所では、5月上旬、成虫、老熟幼虫が見られ、変わらず生息している。

## 1 調査結果 (平成18年='06)

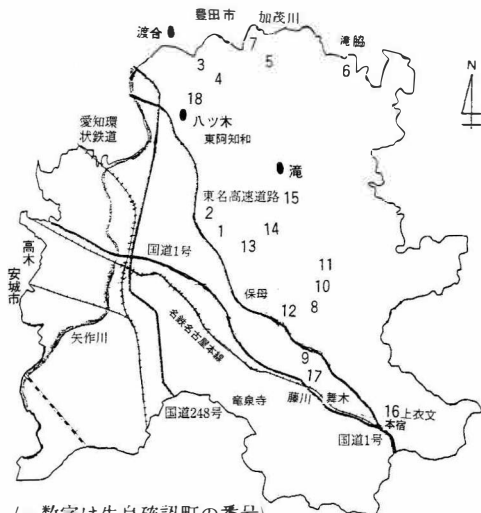
生息確認

|         | 場所             | 月日     | 食草       | 確認数      |
|---------|----------------|--------|----------|----------|
| 岡       | 1 小呂町下屋下、清水    | 7/12   | タカサゴユリ   | 成虫21 幼虫7 |
|         | 2 稲熊町石工公園      | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫13 幼虫9 |
|         | 3 桑原町(南部)      | 7/13   | カサブランカ   | 幼虫1 食痕株7 |
|         | 4 奥殿陣屋東        | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫2      |
|         | 5 奥殿町          | 〃      | カサブランカ   | 成虫1 食痕株7 |
|         | 6 日影町          | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫1      |
|         | 7 宮石町          | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫4      |
|         | 8 池金町下落合       | 7/15   | タカサゴユリ   | 成虫4 幼虫3  |
|         | 9 池金町下大沢       | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫3 幼虫3  |
| 崎       | 10 生平町         | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫1      |
|         | 11 茅原沢町        | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫8 幼虫1  |
|         | 12 小美町         | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫5      |
|         | 13 小美町         | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫1 食痕株2 |
|         | 14 高隆寺町        | 7/24   | タカサゴユリ   | 成虫2      |
|         | 15 才楽町やすらぎ霊園墓地 | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫8 幼虫19 |
|         | 16 岩中町観音南      | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫9      |
|         | 17 大播町         | 7/28   | タカサゴユリ   | 成虫1 食痕株4 |
|         | 18 藤川町一畑山入口    | 〃      | タカサゴユリ   | 成虫1      |
| 19 奥山田町 | 7/31           | タカサゴユリ | 成虫30 幼虫8 |          |

|        | 場所          | 月日     | 食草      | 確認数       |
|--------|-------------|--------|---------|-----------|
| 豊田     | 1 京ヶ峰(吉鶴靖則) | 5/28   | コオニユリ   | 成虫10~     |
|        | 京ヶ峰(岩月)     | 6/28   | コオニユリ   | 成虫1       |
|        | 2 滝脇町       | 7/13   | タカサゴユリ  | 成虫1 食痕株10 |
|        |             |        | オニユリ    | 成虫2       |
|        | 3 加茂川町      | 〃      | タカサゴユリ  | 成虫2       |
| 4 九久平町 | 7/22        | タカサゴユリ | 成虫8     |           |
| 5 大内町  | 〃           | タカサゴユリ | 成虫8 幼虫3 |           |

- ・いずれも生息確認のみで、丁寧に調査していない。
- ・カサブランカは、畑での畝作りの栽培のもの。
- ・2つの稲熊町は工場の石材置場、18は屋敷の畑で養賞用に使っているもの。
- ・他は民家の屋敷の石組みの下や屋敷内の植え込みに生えているもの。

豊田市の一部を除いて地図(額田郡合併前の岡崎市)に表わすと次のようで、いずれも山里で、桑原町は矢作川支流巴川、小呂町、稲熊町(山裾を拓いて造成)は市街地に近い。現在は、国道1号線が境界のようである。



(・数字は生息確認町の番号)  
(●印は前年の確認地)

## 生息していなかった場所

|             | 場所         | 月日    | 食草     | 確認数         |
|-------------|------------|-------|--------|-------------|
| 岡<br>崎<br>市 | 1 藤川町比丘尼墓地 | 7/22  | タカサゴユリ | 28本(生育良好)   |
|             | 2 藤川宿資料館西  | 〃     | タカサゴユリ | 85本         |
|             | 3 竜泉寺町     | 〃     | タカサゴユリ | 110本(2か所)   |
|             | 4 山網町(温泉下) | 7/28  | タカサゴユリ | 116本        |
|             | 5 上衣文町     | 〃     | タカサゴユリ | 120本        |
|             | 6 本宿町市営住宅  | 〃     | タカサゴユリ | 42本         |
|             | 7 保母町      | 〃     | タカサゴユリ | 150本        |
|             | 8 東阿知町     | 7/31  | タカサゴユリ | 41本         |
| 豊<br>田<br>市 | 中垣内町       | 7/22  | タカサゴユリ | 8本          |
|             | 五ヶ丘        | 8/4,5 | タカサゴユリ | (堀田信二氏)     |
| 安城市         | 高木町        | 7/10  | タカサゴユリ | 約250本(寺と墓地) |

## 2 食草について

## ・カサブランカ(園芸種)

桑原、奥殿の2町で、食べられるのが確認された。奥殿では地主がおられ、「10数年育てているが、毎年食い荒らされている」ということであり、確実に食草である。

## ・オニユリ

豊田市滝脇町で花壇一面のオニユリに成虫がいたが、トラック1台が通れる程度の細い道を挟ん

だ民家の軒下のタカサゴユリにも成虫がおり、しかもユリ全てが無残に食べられていたことと、小呂、池金、小美、生平、高隆寺、岩中、大幡、加茂川、九久平、大内などの各地で、両方のユリが混生しているが多かったが、オニユリには成虫がいなかった。従って、オニユリは食草としては好まれず、窮余の食草と考えられる。

## まとめ

2年間の調査で、岡崎、豊田の地方での食草はオニユリ、タカサゴユリ、カサブランカ(園芸種)で、オニユリも食すということになる。

## 主な参考文献

原色昆虫大図鑑(昭和56年)。(北隆館)

原色日本甲虫図鑑(IX)(平成元年)。(保育社)

岩月学(2006)ユリクビナガハムシの生息を確認。

三河の昆虫 No.53: 627~629.

## 三河湾臨海造成地のコメツキムシ

大 平 仁 夫

三河湾は蒲郡市から渥美半島の田原市にかけての湾沿いに、広大な臨海造成地が整備されつつあるし、一部では各種の企業が進出している。これに合わせて道路や公園緑地や防潮林などの自然環境の整備も進められていて、そこには従来の湾沿いでは見られない種が住みついている。三河昆虫研究会の山崎隆弘氏は、ここの昆虫類の分布に注目して調査を進められておられるが、コメツキムシ類についての資料の提供をいただいたのでここに記録する。

本文を草するにあたり、この興味ある資料を調査する機会を与えられた山崎氏に心から感謝の意を表す。なお、ここに記録した地名は、特に明記しない場合はすべて臨海造成地内である。また、ここに記録した標本の採集者はすべて山崎氏本人である。

## 種の記録

1. *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (Motschulsky, 1861) サビキコリ

調査標本: [御津町] 佐脇浜, 9-V-2005 (1♀); 御幸浜, 23-V-2005 (1♀), [豊橋市] 新西浜町臨海緑地, 13-VI-2005 (1♀); 明海町, 13-VI-2005 (1♀); 杉山町中瀬, 9-VI-2005 (1♂1♀); 老津町多門田, 8-VI-1997 (1♀), [田原市] 白磯町, 24-V-2005 (1♂1♀).

各地に広く分布する種である。ここではもっとも普通に見られる種である。

2. *Agrypnus (Agrypnus) mikawaensis* Ôhira, 1986 ミカワサビキコリ (図1, A)

調査標本: [御津町] 御幸浜, 23-V-2005 (4♂1♀); 3-VI-2005 (17♂7♀).

御幸浜産については大平(2006)が報告してい



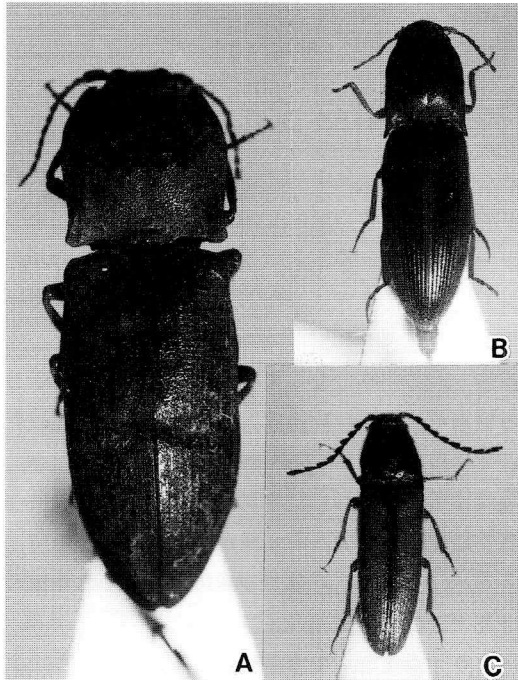


図1. A, ミカワサビキコリ  
 B, オグラカバイロコメツキ  
 C, チャバネクシコメツキ

る。本種は渥美半島原産であるが、分布は集約的であり、主として古い社寺林などに分布していた種である。このような新しい造成地で見出されたことは興味があるが、ここの造成地内の分布も今のところではここだけである。

3. *Agrypnus (Sabikiorius) fuliginosus*  
 (Candèze, 1865) ホソサビキコリ

調査標本：〔御津町〕御幸浜, 3-VI-2005 (1♂).  
 幼虫は土壤中に生息している。ここでの個体数は少ない。

4. *Prodrasterius agnatus* (Candèze, 1873)  
 マダラチビコメツキ

調査標本：〔蒲郡市〕海陽町, 6-IX-2004 (1♂).  
 〔豊橋市〕神野ふ頭町, 5-VII-2005 (1♂2♀).  
 成虫は草地や畑地の地表に生息している。植物と共に運ばれてきた種と思われる。

5. *Agrigotes ogurae ogurae* Lewis, 1894  
 オグラカバイロコメツキ (図1, B)

調査標本：〔豊橋市〕新西浜町, 20-VI-2005 (5♂9♀); 神野西町, 19-VI-2005 (1♂1♀).  
 この臨海造成地で、本種が見出されたことは大平 (2005, 2006b) にも報告したが、ここでの最

初の発見者は山崎氏である。とくに新西浜町では道路沿いのヨモギをビーターングして見出している。本種がどこからきてここに定着したかは不明であるが、継続して成虫が見出されていることから、この近くに繁殖地があることは間違いない。

6. *Melanotus (Melanotus) legatus legatus*  
 Candèze, 1860 クシコメツキ

調査標本：〔御津町〕安礼の崎, 27-V-2005 (1♀). 〔豊橋市〕神野ふ頭町, 19-VI-2005 (1♂4♀); 杉山町中藻, 15-V-2005 (1♀); 明海町, 20-VI-2005 (1♂).

各地の農耕地や雑木林に広く分布する種である。幼虫も土壤中で見出される。

7. *Melanotus (Melanotus) lewisi lewisi*  
 Schenkling, 1927 ルイスクシコメツキ

調査標本：〔豊橋市〕神野ふ頭町 (緑地公園), 5-VII-2005 (1♀).

前種と同様に広く分布するが、個体数は少ない。

8. *Melanotus (Melanotus) senilis senilis*  
 Candèze, 1865 クロクシコメツキ

調査標本：〔御津町〕安礼の崎, 9-V-2005 (1♂); 新西浜町, 13-VI-2005 (1♀). 〔豊橋市〕神野ふ頭町, 19-VI-2005 (4♀); 杉山町中藻, 21-IV-2005 (1♂).

各地の農耕地や畑地に広く分布する種である。

9. *Melanotus (Melanotus) seniculus*  
 Candèze, 1873 チャバネクシコメツキ (図1, C)

調査標本：〔豊橋市〕杉山町中藻, 21-IV-2005 (1♂).

個体数が少ない種で、成虫は春先に出現する。豊橋市からはこれが最初の記録である。

10. *Melanotus (Spheniscosomus) crebricollis restrictus* Candèze, 1865 オオクロクシコメツキ

調査標本：〔御津町〕御幸浜, 23-V-2005 (1♀). 〔豊橋市〕神野ふ頭町 (緑地公園), 19-VI-2005 (1♂1♀).

体は触角も肢も黒色をした種である。各地に分布しているが個体数はどこでも少ない。

11. *Oedostethus telluris* (Lewis, 1879)  
 クロツヤミズギワコメツキ

調査標本：〔蒲郡市〕海陽町, 24-VI-2006

(2exs.). [豊橋市] 神野西町, 11-VI-1998 (2exs.).  
河川敷の開けた雑木林上で見出される種である。豊川の河川敷では、ヤナギなどで成虫が見出されることが多い。蒲郡市からはこれが最初の記録である。

12. *Fleutiauxellus (Microhypnus) agilis*

(Lewis, 1894) ホソミズギワコメツキ

調査標本: [豊橋市] 神西浜町, 24-VI-2006 (1♀).  
河川敷の砂礫中に分布する種である。豊川の河川敷からは記録があるが、個体数は多くない。豊橋市からは長谷川・山崎 (1999) が賀茂町から記録している。

13. *Paracardiophorus pullatus pullatus*

(Candèze, 1873) コハナコメツキ

調査標本: [御津町] 新西浜町, 24-VI-2006 (1♂). [豊橋市] 吉前町, 12-X-2005 (1♂).  
各地に広く分布する種である。

14. *Paracardiophorus nakanei hondoensis*

Ôhira, 1997 ホンドコハナコメツキ

調査標本: [豊橋市] 吉前町, 12-X-2005 (1♂).  
前種と同じ環境に分布している。本種は鉛色の光沢があり、上翅の間室は扁平状である。

15. *Platynychus nothus* (Candèze, 1865)

オオハナコメツキ

調査標本: [豊橋市] 新野新田町, 30-IV-1995 (21exs.); 杉山町中藻, 24-V-2005 (1ex.). [田原市] 白磯, 24-VI-2005 (29exs.).  
河川敷などの砂地帯に多い種である。

16. *Displatynychus adjutor adjutor*

(Candèze, 1873) アカアシハナコメツキ

調査標本: [蒲郡市] 浜町亀岩公園, 24-VI-2006 (18exs.).  
この公園の森にはサギや鶉のコロニーがあり、

その周辺に本種が多く見られた。このコロニーの排泄物との関係は不明である。

### あとがき

ここの臨海地域で造成される広大な土地は、海岸の周辺の自然環境に大きな影響を生じ、在来の海浜性の種は絶滅に追いやられることが多い。しかし、そこで造成された土地は、防潮林や公園緑地などが整備されて、次第に緑の陸地となり、内陸部との違和感はなくなってくるが、そこに生じる樹木や草本類の群落は、その地域の内陸部のものとは異なり、同一種が大量に植林されたりして、植生は単純化されている。したがって、そこに生息する種も単純で、同一種が多く見られる傾向にある。一方で、内陸部で絶滅に追いやられる種の一部が、ここで繁殖をしている場合も見られる。ミカワサビキコリやオグラカバイロコメツキ、クロツヤミズギワコメツキなどはその例と思われる。ここに記録した16種の幼虫はすべて土壤中に生息するもので、朽木に入る種はいないのも興味深い。その他、ここの植物や埋め立ての土壤がどこから運ばれたかについては不明のままである。

### 引用文献

- 長谷川道明 (1999) 豊橋市自然環境保全基礎調査報告 (資料編), コメツキムシ科: 128-130. (豊橋市)  
大平仁夫 (2005) オグラカバイロコメツキ豊橋市に分布。虫譜, 43(2): 25-26.  
大平仁夫 (2006a) 三河地方から採集されるコメツキムシについて (24). 三河の昆虫, (53): 630-632.  
大平仁夫 (2006b) オグラカバイロコメツキの形態と生態。越佐昆虫同好会報 (95): 21-28.

### ☆三河昆虫研究会への入会案内☆

三河昆虫研究会は、会報「三河の昆虫」を年1回と連絡紙の「三河の昆虫(通信)」を複数回発行し、地域の昆虫相の解明につとめています。入会希望のかたは、年会費3,000円を添えて下記あて申し込みください。